

# 山行報告書

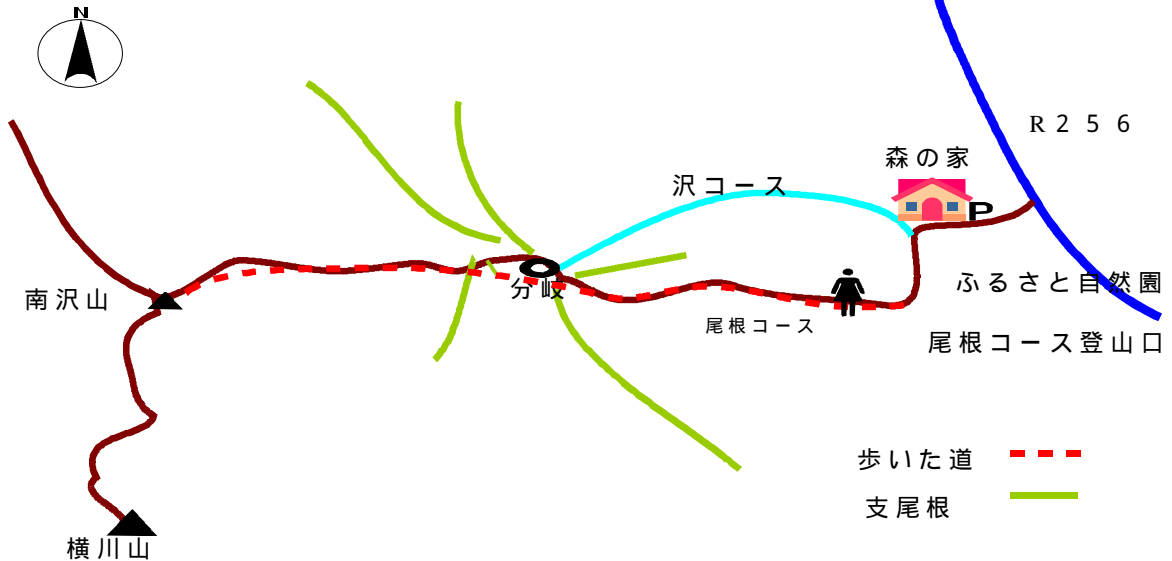
作成：2006年2月2日  
愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	南沢山(1564m) [木曾]	目的[方法]	雪山読図山行
期間	2006年1月29日(日)	形態	日帰りハイキング
参加人数	10人		

## 行動記録:

1/29(日) 晴天、ほとんど風なし、-8  
 旧岡崎市民病院跡PKG(500) ==0:20== 岩津市民センター(520,530) ==2:20== ふるさと村自然園(750,835) -- --  
 2:00-- 尾根/沢コース分岐(10:35,10:45) -0:50-- 南沢山頂上(1135,1310) --0:30-- 尾根/沢コース分岐(13:40,13:50) --0:50-- ふるさと村自然園(14:40,15:05) ==0:15== 昼神温泉(15:20,16:15) = 1:00 = 稲武「さぬき亭」 =0:55 ==岩津市民センター(18:40,18:45) ==0:25== 旧岡崎市民病院跡PKG(19:10)

## 概念図



## 日誌

今回の山行は新春ダイエット山行敗退のリベンジ的な意味合いをもち、雪山読図山行と名づけられた。山道の消えた雪山での地図を読みながらの山行を目標とした。事前に地図、磁石の準備、行程の確認も入念にされた。

ふるさと自然園へ向かう道筋の景色は、正月のころのそれとは全く様相が違っていた。道路には雪はほとんどなく、周辺の山々も積雪は少なかった。前回使った駐車場への入り口は閉鎖されており、少し登った宿泊施設の駐車場を利用した。気温は-8であるが空は晴れわたり、風もなく絶好の登山日和であった。ワカン、雨具も着装の必要なしと判断、リュックにくくりつけていく事にする。駐車場で、ビーコンを着装しスイッチを入れ、使用方法を確認する。また、プループが担当者に配られた。スコップは5人の方が自前を持参。

10人を2グループに分け出発。登り口付近で地図と磁石の確認。もう既に数人が入山した跡があるトレースを少し落胆しながら歩く。雪は硬くしまっており先回のフレッシュなさらさら雪とは全く感触が違う。尾根に上がり地図を広げては支尾根を確認したり、現在地を確認したりしながら進む。トレースのある雪道は何と楽なことか。ラッセル行程の3分の1くらいの体力と時間で済む。雪は50cm以上沈んでおり目印も多く発見できた。先回の徘徊のポイントでその原因を確認しながら、敗退ポイントまで進む。頂上まで200m余りの距離が何と近いことか。でもラッセルで登頂は難しいのであろう。あの時点での敗退を決めたリーダーの判断を勇断と見る。雪の積もった頂の上に広がる空は青く澄みわたり感動の声が上がる。すばらしいパノラマの景色に一同感嘆！！頂上で食べたお汁粉のおいしかったこと！！帰りはシャーベット化した雪道に足をとられながら迷うこともなく下山。すばらしい頂上の景色に一同満足気であった。

## 感想

雪山と言えども、条件によってかくも様相が変化するのかもしれない。トレースの付いた道に好天がプラスされれば、本当に快適なハイキング登山になる。しかし、低山であっても新雪の山は美しくも、いつでも危険をはらんでいると感じた。初心者の私としては装備の学習から、読図、ワカンの使い方など数多くの勉強をしたが、浅学であり体験不足を実感した。

